



TITLE:

京大広報 No. 75

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 75. 京大広報 1972, 75: 311-314

ISSUE DATE:

1972-10-13

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209617>

RIGHT:

# 京大広報

No. 75

京都大学広報委員会

## 大学問題検討委員会の「大学の未来像について」の答申について

昭和47年9月27日

京都大学総長

前田敏男 殿

大学問題検討委員会

委員長 竹崎嘉真

### 大学の未来像について（答申）

このたび、大学問題検討委員会から「大学の未来像について」の答申がありました。答申全文については、別刷りとして、近く学内に配布することにしております。

大学問題検討委員会では、発足以来3年余の長期にわたって調査審議を重ね、この答申を作成されました。しかしながら、この答申は、各部局を代表する意見によって作成されたものでもなく、また学内各層の検討を経て作成されたものともいえません。したがって、この答申が広く読まれ、これをもとに、大学の未来像について各部局、各層の間で活発に議論がなされ、改革のための多くの有益な御意見が寄せられることを、強く希望いたします。

なお、この答申についての御意見は、総長あて（庶務部庶務課気付）に文書で提出してください。

京都大学総長 前田敏男

本委員会では、大学の未来像について、第一部会を中心として検討を重ねてまいりましたが、このたび多数の委員の賛成により成案を得ましたので、答申いたします。

京都大学の長期にわたる改革案の作成は、単に大学問題検討委員会の検討の結果だけに基いて行なわれるべきものではなく、学内における種々の立場からの検討を経てはじめて可能となるものと考えられます。従いまして本委員会は、この答申が学内で広く検討に付されるよう処置されることを希望いたします。

なお、末尾に各委員の答申本文に対する意見を付記いたします。

### 大学の未来像について（答申）

#### 目次

#### 第Ⅰ部 大学の任務

はじめに

#### 第1章 序説

#### 第2章 大学における研究

##### 2-1 大学における研究の理念

##### 2-1-1 真理の探究

##### 2-1-2 大学における研究の特徴

##### 2-2 大学における研究と社会

##### 2-2-1 大学における研究の社会的意義

## 大学問題検討委員会経過報告

### 1 「大学の未来像」の答申提出

本委員会は、本年4月以来、第1部会が作成した標記答申原案について審議を重ねて来たが、一部修正のうえ、8月12日の委員会で最終的に答申として可決され、9月27日付けで総長に答申した。

その内容については、遠からずその全文が発表されるはずであるが、ここでは答申前文と目次を掲げる。

2—2—2 研究と社会との関係をめぐる諸問題

2—2—2—1 現代の研究をめぐる状況

2—2—2—2 社会との関係における研究のあり方

第3章 大学における教育

3—1 大学における教育の理念

3—1—1 学校教育の意義と大学教育の位置づけ

3—1—2 大学教育の特徴

3—2 大学教育における専門性と総合性

3—2—1 専門性の要請

3—2—2 総合性の要請

3—3 大学における教育と研究との関係

3—3—1 学生にとっての研究的要素の意義

3—3—2 研究者にとっての教育の意義

3—3—3 教育との関連における研究のあり方

第4章 総合大学の意義

おわりに

第Ⅱ部 大学の現状と問題点

はじめに

第1章 学部など大学の組織区分の現状と問題点

1—1 学部制度などの現状の欠陥に対する一つの視点

1—2 学部制度の背後の考え方と組織のあり方

第2章 研究の現場の現状と問題点

2—1 研究推進の現状——講座制などの運営をめぐって

2—2 研究予算などについて

2—3 若手研究者・助手などの問題

2—4 中堅教員の研究条件

2—5 教員の人事交流

2—6 技術系職員および研究補佐員の問題

第3章 教養部の現状と問題点

3—1 一般教育の必要性和理念について

3—2 一般教育の実施をめぐる努力の問題点

3—2—1 学部側の努力の問題点

3—2—2 教養部における努力の問題点

3—3 教員組織の問題点

第4章 研究所の現状と問題点

4—1 研究所設立の経過、趣旨と内部構成の変遷

4—2 研究所の存在意義と現実

4—3 研究所における研究と教育

4—4 学部と研究所との間における人的・機能的交流

第5章 医学部附属病院の現状と問題点

5—1 附属病院の性格

5—2 卒後研修—いわゆる無給医—の問題点

5—3 医局制の問題点

5—4 看護婦など医療関係職員の問題点

第6章 大学院制度の現状と問題点

6—1 入学と進学

6—2 予算と設備

6—3 教育と教員の負担

6—4 研究者としての大学院生とその身分保障

6—5 大学院生と助手

6—6 学位—大学院修了—

第Ⅲ部 大学の未来像

はじめに

第1章 教員の研究および教育の組織について

1—1 基本的な考え方

1—2 「部」の具体的構想

1—2—1 「部」の種類—標準的形態の「部」と特殊形態の「部」

1—2—2 「部」の機能・構成等について

1—3 「部」間の関係

1—4 全学管理運営機構と「部」の関係

1—4—1 基本的な考え方

1—4—2 全学執行機関と全学審議機関

1—5 「部」設置の具体的手続(移行措置)について

1—6 新制度発足後の「部」の改廃・組織変更

第2章 教育課程および学習組織について

2—1 一般教育と専門教育について

2—1—1 一般教育について

2—1—2 専門教育について

2—1—3 一般教育と専門教育の実施方法

2—2 教育課程の構想

2—2—1 第1期の教育

2—2—2 第2期の教育

2—2—3 第3期の教育

2—3 教育課程実施上の諸問題

第3章 研究者養成制度について

3—1 基本的な考え方

- 3-2 「研究員」制度
- 3-3 「大学院課程」
- 第4章 研究体制上の諸問題—「部」構想と研究推進のための周辺条件—
- 4-1 「部」における研究
- 4-2 研究活動の推進とまとめ
- 4-3 研究交流の促進
- 4-4 総合大学と全学研究奨励予算
- 4-5 研究状況の点検と反省
- 4-6 人事の流動性

おわりに

## 答申本文に対する意見

2 総長選挙制度の改正に関する第3部会の近況  
7月末の部会で、総会に提出すべき部会報告について、およそ次のような項目について執筆分担を決定した。

### 1 総論

- (a) 総長の地位と総長選挙
- (b) 選挙権の範囲

### 2 選挙の方式（助手までを含む。）

### 3 選挙時以外のリコール制度の問題

9月からは、執筆された文章間の調整に入っている。

（大学問題検討委員会  
委員長 竹 崎 嘉 真）

## 藤枝晃教授のスタニスラス・ジュリアン賞の受賞について



人文科学研究所教授藤枝晃氏は、今回その著作『文字の文化史』（岩波書店）に対して、フランス学士院文芸アカデミー（Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, Institut de France）からスタニスラス・ジュリアン賞を贈られ、本年7月13日に関西日仏学館で挙行されたフランス革命記念日前夜祭の席で、その授賞式が行なわれた。

この賞は、19世紀中葉におけるヨーロッパ最大のシナ学者であったスタニスラス・ジュリアン

Stanislas Julien (1797~1873) が遺した基金に基づいて、毎年、中国に関する最高の業績に対して与えられるもので、この分野においては国際的な権威をもった賞である。本学関係者では、元総長羽田亨博士、元京都博物館館長神田喜一郎博士および名誉教授吉川幸次郎博士に次ぐ受賞であって、本学の中国研究が国際的にいよいよ高く評価されたものとして、まことに慶賀に堪えない。

受賞作である藤枝教授の『文字の文化史』は、漢字と中国周辺諸民族の文字を対象とする研究にはちがいないが、文字がその上に実際に書かれている物、つまり亀甲獣骨・金石・木簡・布帛・紙などの材質から文字を切りはなさずに、書かれた物自体に密着し、また文字を書く筆記具にも注意しつつ、文字の変遷と、書かれた物—広い意味での古文書—の変遷を、いわば考古学的に追求されたものである。

これによって従来未開拓であった中国古文書学に、新しい礎石が置かれることになった。教授の著作がユニークであるゆえんは、そこにある。それは教授の長年にわたる、敦煌地方の歴史・異民族との交渉史・古代中国の金文・木簡をはじめ、印章からいわゆる敦煌文書に及ぶ広範囲な研究の成果が、ここに珠玉の結晶を生み出したのであって、同時にそれは人文科学研究所の共同研究の成果にも関係している。その意味で、今回の教授の受賞は、わが研究所としても同慶の至りに思うものである。

（人文科学研究所）

## 9月26日以降の本学における事態について

9月26日（火）以降10月4日（水）までの一連の事態は、おおむね次のとおりである。

(1) 9月26日（火）午前6時頃、本学文学部学生に対する暴力行為等処罰に関する法律違反、傷害および兇器準備集合被疑事件につき、京都府警察本部により、本学関係施設の強制捜査が行なわれた。

捜索を受けた場所は、文学部長室、文学部学友会ボックスを含む新館地下の4室、経済学部同好会ボックス、教養部A号館1階の5室および熊野寮B棟307号室であった。

なお、10月4日（水）午前7時頃から、上記中



の暴力行為等処罰に関する法律違反および傷害被疑事件について、文学部第1講義室の現場検証が京都府警察本部によって行なわれた。

(2) 9月26日(火)午前10時から、総長室において、かねて予定されていた部局長会議を開催していたところ、同11時頃、全臨闘と称する一部グループが、臨時職員問題に関する話し合いを求めて押しかけ、部局長会議は中断のやむなきに至った。この状態は午後4時頃まで続いた。

引き続き文学部学友会、経済学部同好会、熊野寮自治委員会および吉田寮自治委員会の名で一部学生グループが押しかけ、強制捜査に関する話し合いを要求し、27日(水)午前1時半過ぎに及んだ。

なお、9月26日(火)午後3時から同5時まで予定されていた授業料値上げ問題等についての総長と同学会、京院協との話し合いは事実上中止され、あらためて9月28日(木)および29日(金)夕刻から30日(土)朝にかけて行なわれた。

(3) 総長は、部局長会議にはかつて、強制捜査に関する大学主催の説明会を開くこととし、その説明会は10月2日(月)午後1時から法経第1教室において開催された。説明会は深夜にまで及び、10月3日(火)午前3時半頃いったん中断して、同日午後5時過ぎに再開され、翌4日(水)午前2時頃まで継続された。

### 強制捜査に関する総長声明

上記の強制捜査に関し、総長は次のような声明を発表した。

#### 総 長 声 明

1 9月26日早朝の京大経済学部同好会ボックス、文学部長室、文学部学友会ボックスを含む新館地下の4室、教養部A号館1階の5室および熊野寮B棟307号室に対する捜索は、その際に被疑事実と関係のないものが押収されたおそれがあり、必ずしも正当とは思われない。

2 そのような疑問の多い捜索によって個人の基本的人権、大学の自治がおびやかされる危険が大きく、従って今後、2度とかかるうたがわしい捜索のないよう、今回の捜索を行なった京都府警に対し、抗議するものである。

### 授業料増額に関する総長談話

総長は、授業料増額に関し、次のような談話を発表した。

#### 総 長 談 話

国立大学の授業料増額問題に関しては、かねてより慎重な取扱いを要望していたにもかかわらず、さきに、国立大学の存在意義や授業料の性格について十分な論議をつくすことなく、また、増額の根拠を明確に示すことなく増額が決定されたことは、遺憾なことであった。

昭和47年度の増額された後期分授業料の納入時期にあたり、奨学金の拡充および授業料減免の枠の拡大その他教育の機会均等をはかるため一段の努力がなされるよう、関係当局に要望する。